

## 需要と供給から見た生態系サービス指標

### 【記載方針】

- ・ PANCES (S-15) の Policy Brief (参考資料 3) では、政策提言 4 として、生態系サービスの予測評価にあたって需要サイドでの生態系サービスと供給サイドでの生態系サービスの両サイドで評価する必要がある、これによってストックである自然資本の持続的な活用に必須である需給バランスを踏まえた生態系サービス (フロー) の政策検討が可能となることが述べられている。
- ・ 特に第 1 及び第 2 の危機に関連して、生態系サービスのオーバーユース・アンダーユースを明示的にするためには、生態系サービスに需要・供給の両面から指標の設定を行うことが必要であることから、JBO3 においても、需要・供給両面での指標による生態系サービスの評価を行う。
- ・ 基本的には供給サービスについて需要・供給の両面から指標設定を行うことを想定しているが、それ以外のサービスについても、需給関係が明確に分かるもの・需要に関するデータが取りまとめられているものについては、需要側の指標設定を試みたい。

### 【需要に関するデータ整理状況】

- ・ 農林水産省では、食料需給表・木材需給表・特用林産物生産統計調査等において、供給サービスの総需要量が取りまとめられており、生産量に対応する需要指標として位置づけることが出来る。
- ・ 他方、購買に関する指標については、項目によっては販売価格や世帯当たりの年間支出金額の推移が農林水産省によって取りまとめられているが、JBO2 において用いられている指標である生産額に対して、上記指標をどのように位置づけるかを検討する必要がある。
- ・ また、文化的サービスについても、財や機会の提供としての側面を有するもの (例として、国立公園数と利用者数、酒類生成量／販売量) は、需給の両面から整理が行われている。

### 【ご検討いただきたい事項】

- ・ 供給サービスについて、生産量・生産額に対してどのような指標を設定することが適当か。例として、生産量に対して国内消費仕向量を需要側の指標として設定することは適切か。
- ・ 供給サービス及び一部の文化的サービス以外の生態系サービスについて、需要と供給の観点から指標設定を行うことは可能か。また、どのような知見があるか。